

二俣川ニュータウン地区

二俣川ニュータウン地区は、区中西部に位置し、県運転免許試験場と保土ヶ谷バイパスにはさまれた丘陵部を開発して生まれたニュータウンと、その周辺の地区からなります。開発から約50年になります。

現在、11町内会・4000世帯、その9割を戸建て住宅が占めています。高齢化率は区内4位と高齢化が進んでいる地域です。



■めざす地区の姿

住んでよかったと思える街

～音楽が響き スポーツが盛んなまち みんなのふるさとニュータウン～

■目標A

連動する区計画の柱 3 地域の取組で元気力アップ

まちの魅力を伝える地域の情報共有

～「きょう用」がある「きょう行く」ところがある 生きがいのある街へ～

■具体的な取組

○A-1 まちの情報をつないで「見える化」する

- ・二期計画期間に作成した介護予防等地域活動一覧、マップをベースに「まちの魅力を伝える冊子」を作成・配布します。
 - ・地域の広報に掲載する情報を充実させ、活用を図ります。
- 「まちの魅力を伝える冊子」や「地域の広報誌」から「今日の用事」、「今日行くところ」を見つけて、生きがいのある街をめざします。

○A-2 誰でも参加できる公園での「ラジオ体操」の展開

公園でのラジオ体操をだれでも参加できる活動と位置づけ、開始する。顔みしりをつくり、老人会参加も促します。

○A-3 外出ボランティアの育成

既存ボランティア団体と連携を密にし、活動の土台をつくります。



コーラス「コスモス」



グラウンドゴルフ



金が谷公園のラジオ体操

■目標B

「ふるさと」を育む 幅広い区民参加の仕掛けづくり

■具体的な取組

○B-1 中高大学生が地域行事に主体的に参加できる仕組みづくり

夏祭り、運動会、音楽祭、敬老会、福祉まつり等様々な行事で地域と学校が連携し、中高大学生が行事の一部を担い、思いやりの心をはぐくむとともに、自分が役に立っている、必要とされているという気持ちを得る機会を作ります。

○B-2 行事の担い手・後継者を育てる

- ・町内会や各種委員、学校PTA 関係などの地域活動の経験ある方に呼びかけて、できるときに、できる範囲で、できることに手を挙げていただけるよう呼びかける仕組みを作ります。
- ・レクリエーション部（仮称）をつくり、地域住民へ参加を呼びかける仕組みを作ります。

○B-3 音楽が響き、スポーツが盛んな街づくり

地区内にはいくつも合唱団があり、小中学校の音楽活動が盛んです。多くの方が「聴く、歌う、奏でる」に参加する、響き合う街をつくります。

スポーツは体を健康にし、心は爽快で、そして笑顔をもたらします。ご近所のできる軽スポーツやレクリエーションを増やします。

年間を通じ様々な行事が展開されています



6月 福祉まつり

地域住民の献品によるバザーをはじめ各種団体の模擬店・三世代輪投げ・地場野菜の即売・工作教室など様々な催しが展開されています



8月 夏まつり

各町内会の神輿・山車の練り歩きを皮切りに各種団体による20の出店・盆踊り・大抽選会などなど二日間にわたりにぎやかに開催されます



10月 敬老のつどい

中沢小学校の合唱・旭中学校吹奏楽、国大民謡研究会による歌と演奏と踊りのパフォーマンスなどにより多くの元気をもらいます



10月 大運動会

未就学児から高齢者まで2千人が参加し町内対抗をはじめ17種目の競技が繰り広げられます



11月 マラソン大会

小学生から成人シニアまで200人を越えるランナーが参加し1周2キロのコースで健脚を競います



1月 音楽祭

富士見学園大講堂で開催され地区内の多くのコーラスグループによる合唱をはじめ、様々な演奏が奏でられます



1月 もちつき大会

80キロの餅をつき、あんこ・きなこ・大根おろしなどのくるみ餅に加え、防災拠点による豚汁もあります

■目標C

街の防災 自助・共助意識の向上と実践

～高齢化の下で災害時への備えを万全とし、安全で心の不安がない街づくり～

■具体的な取組

○C-1 自助意識の向上と実践【NT 防災連絡協議会】

防災訓練等を通じて、地震発生時のシェイクアウト行動（DROP 姿勢を低く屈む・COVER 机の下に潜る・HOLD ON 収まるまで動かない）の普及を図ると共に、住宅の耐震調査・耐震工事の実施、家具の転倒防止工事の実施、飲料水・食料品等の備蓄など自助意識の向上と実践に向け啓発を進めます。

シェイクアウト行動



○C-2 共助意識の向上と実践【NT 防災連絡協議会】

発災時の「黄色い旗掲示行動」「ご近所集合場所の整備」「安否確認の実施」などを防災訓練時に引き続き取組むと共に、夜間の発災を想定した防災訓練を実施します。防災拠点でのペットへの対応策を検討します。災害ボランティアの育成と消防団組織づくりに取組めます。地域内へ消火栓を利用したスタンドパイプ（機材）を整備します。

「支え合いカード」を進展させ、支え、支えられる互助体制を構築します。



スタンドパイプと放水訓練

■目標D

見守り体制の充実と地域交流の場の拡充

■具体的な取組

○D-1 日常のみまもり活動をより充実に

散歩やゴミ出し等日常生活の中で登下校時の児童や高齢者等を地域で見守っていきます。民生委員や友愛活動推進員を中心にお困りの世帯など必要に応じて訪問対応をします。地域内のパトロールも防犯と共に子どもの見守りも行います。

○D-2 空き家を利用した地域交流サロン

持ち主のご協力の元、地域を中心に運営します。地域で活動しているボランティア団体等にも協力してもらい、誰もが立ち寄りやすいサロンを実施します。地域交流と共に、貸室の提供や今宿地域ケアプラザよる介護等の身近な相談活動も行います。



子育て「わいわいクラブ」



ミニディサービス「あかり」



サロン「あさひ」

ニュータウンコラム ～「並木愛護会」の設立と落葉清掃の実施～

ニュータウン通りに植栽された銀杏やトウカエデは大量の落葉を発生し、高齢化の進展の中で、沿道住民の大きな負担となっていました。

そこで、これらを支援するため「並木愛護会」を設立しました。サポーターを募集し、落葉の期間中週3回合計13回の清掃活動を実施しています。現在の登録サポーターは115名となっています。また、小・中学生の参加をえて、清掃大会（26年度は中学生52名が参加）・落葉アート（26年度は小学生38名が参加）を開催し、世代間交流の成果もあげています。引続き、事業を実施することが必要であります。財政面での課題があります。



ニュータウン通りの
黄葉の銀杏並木と
中学生も参加の清掃活動



落葉アート制作風景



■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015年3月を見ると、旭区（折れ線）に比べ65歳以上、特に70歳から80歳の層の比率が団塊世代の層よりも高くなっている一方で、20歳から39歳の層の比率が低くなっています。
- ・人口の推移では、この5年間で約200人減少しています。高齢化率は4.5%増の35.9%で旭区平均より高くなっています。
- ・世帯数はこの5年間で約100戸増加しています。また、世帯人員は減少傾向にあります。
- ・地区の将来人口の予測では、2020年で約10100人、2025年で約9600人と見込まれます。また、高齢化率は2020年で約37.2%、2025年で約38.2%になり、75歳以上人口が減少に転じるため2030年以降の伸び率はほぼ横ばいになると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■ 2期計画の振り返り

① 「緊急時・救急キット」(健康カード)の整備

緊急時への対応や救急搬送などを迅速に行うため必要な情報(かかりつけ病院・持病の有無・薬の服用状況・連絡先など)をカードに記入しキットに入れ、各家庭の冷蔵庫に常備することを目的に、地区内の全世帯を対象に実施し、2町内会での全世帯整備をはじめ、全体では世帯加入率67%の整備を行うことができました。今後の課題としては健康カードの定期的な更新や未整備世帯への働きかけが必要です。

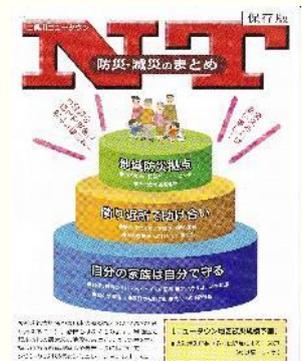
健康カード・カプセル



② 街の防災を見直すとともに、防災意識の向上をめざす

「防災懇話会」の開催、全世帯を対象とした「防災意識アンケート」の実施などにより、地域の防災課題を洗いなおすとともに、その課題解決に向け「防災連絡協議会」が組織され、「防災パンフレット」の作成・全世帯への配布、「災害時支えあいカード」の点検と再募集をはじめ、発災時の「黄色い旗掲示行動」「ご近所集合場所の整備」「安否確認の実施」などを防災訓練時に取組み・実施した。また、地域内へ消火栓を利用したスタンドパイプ(機材)を試験的に1セット整備しました。引き続き、地域住民の防災意識の向上を図るとともに地域の防災を共有し、自助・共助の実践・取組みが必要です。

防災パンフレット



③ ニュータウン通り「並木愛護会」の設立と落葉清掃の実施

ニュータウン通りに植栽された大量の落葉を発生する銀杏やトウカエデの落葉清掃を「並木愛護会」を設立し、高齢化により清掃が負担となっている沿道住民を支援しました。(ニュータウンコラム参照)

④ その他

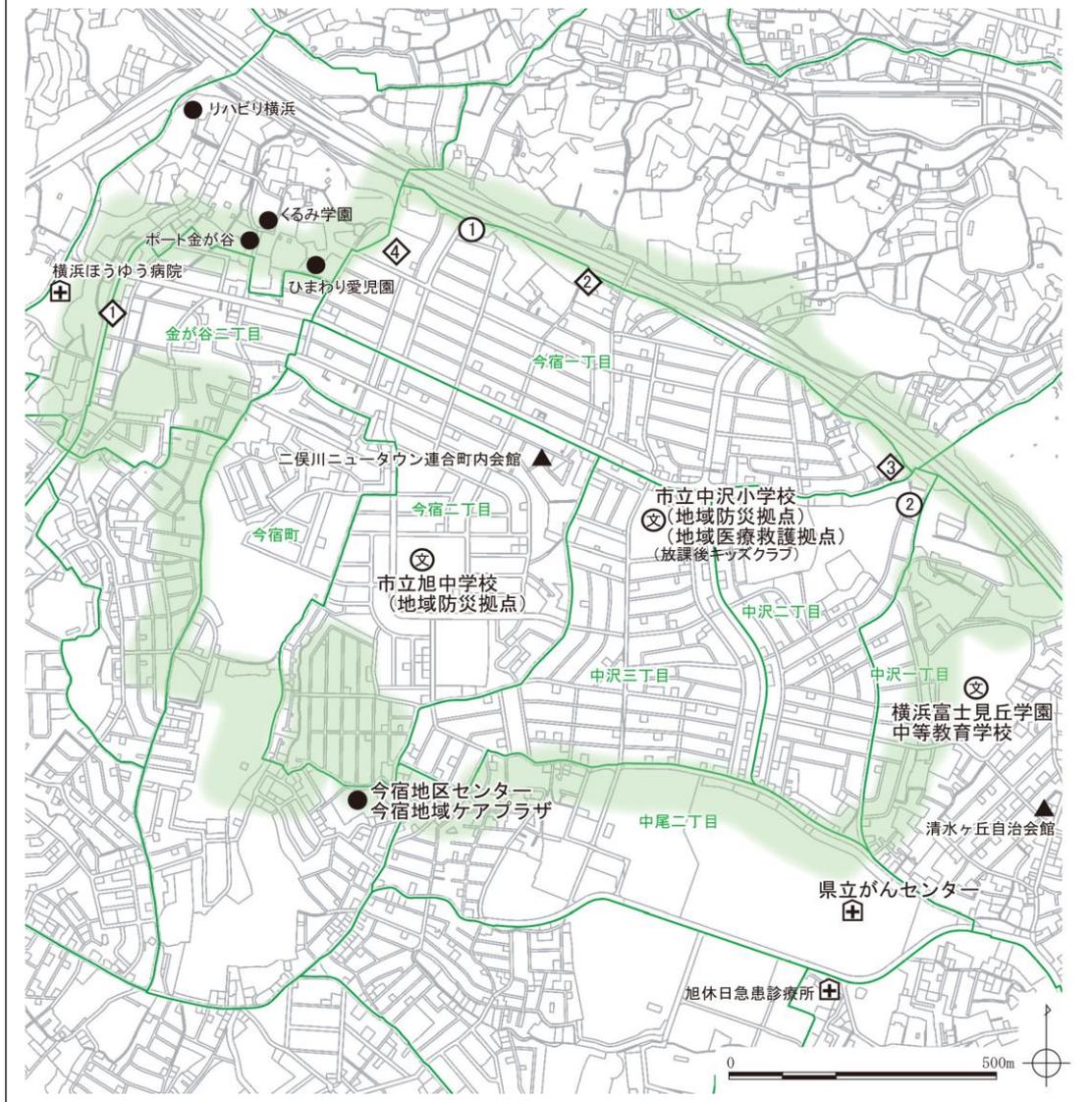
地域内の介護予防活動を把握するために、介護予防等地域活動一覧と活動場所を地図上に記したマップを作成しました。これにより、様々な地域活動の全体像を把握できたので、活用方法を検討していきます。

■ 地区の福祉課題

- ・地元で健康寿命を長くしたいが、新しい活動はとりまとめる人が大変で担い手がない
- ・老人会の加入率が低い
- ・介護予防等地域活動一覧の活用と広報を充実させていくこと
- ・日常の見守りの充実が必要
- ・子育て支援活動の拡充、整備、担い手の確保
- ・子育て世代がもっと地域へ目をむけてくれるようになること
- ・中高大学生ボランティア活動を活発にしていくこと
- ・地域行事を継続していくための後継者、担い手を確保すること
- ・常設サロンの開設・外出ボランティアの育成
- ・自助、共助の取組から防災意識の向上をめざしていくこと



■福祉保健施設の分布



■施設リスト

子ども

家庭的保育事業

- ① 瀬戸保育室

幼稚園

- ② しみずがおか幼稚園

高齢者

小規模多機能居宅介護

- ① アルメリア

認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

- ② みんなの家 横浜今宿

介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)

- ③ 今宿ホーム

- ④ 陽光苑

旭中央地区



旭中央地区は、北西から流れ込む帷子川と南西からの二俣川の合流地点の西側丘陵を主体にした地域です。分水嶺が町境となっています。市街化調整区域を含みますが、幹線道路に囲まれた地区となっています。

人口、世帯数ともほぼ横ばいで、年齢別人口構成は、旭区の平均と非常に近いものとなっています。

■めざす地区の姿

コミュニケーションが活発なまち

- ・この街に住んで良かったと思うまち
- ・お年寄りから子どもまで全ての人が、楽しく安心して生活できるまち

■3期計画の主なポイント

これまでの活動を継続しながら、地域の交流を深め、お互いに助けあえる環境を作ります

■目標A

連動する区計画の柱 2 安心して自分らしい生活ができる地域づくり

地域交流の充実

■具体的な取組

- コミュニティバス「四季めぐり号」・・・コミュニティバス「四季めぐり号」運行委員会
- 災害時ひとりも見逃さない運動・・・自治会町内会・民生委員児童委員協議会
- 防犯パトロール・・・自治会町内会
- 三代美サイクルふれあいのつどい・・・地区社会福祉協議会・地域住民

■目標B

連動する区計画の柱 3 地域の取組で元気カアツ

高齢者支援の充実

■具体的な取組

- 健康づくり
 - ウォーキング・・・保健活動推進員
 - 町ぐるみ健康づくり教室・・・自治会町内会
- ひとり暮らし高齢者昼食会
 - ・・・地域ボランティア・民生委員児童委員協議会
- 高齢者交流サロン・・・地域ボランティア
- 高齢者懇親会・・・地区社会福祉協議会



■目標C

安心して子育てが出来る地域づくり

■具体的な取組

- 子育て支援「かみふうせん」・・・民生委員児童委員協議会
- 登下校見守り・・・自治会町内会



■目標D

障がい者理解の土壌づくり

■具体的な取組

- 障がい施設が地域内になく、なかなか繋がる機会が少ないですが、相互に理解が深められるよう、障がいを理解できる土壌を作ります。

・・・地区社会福祉協議会・地域住民

三世代美サイクルふれあいのつどい

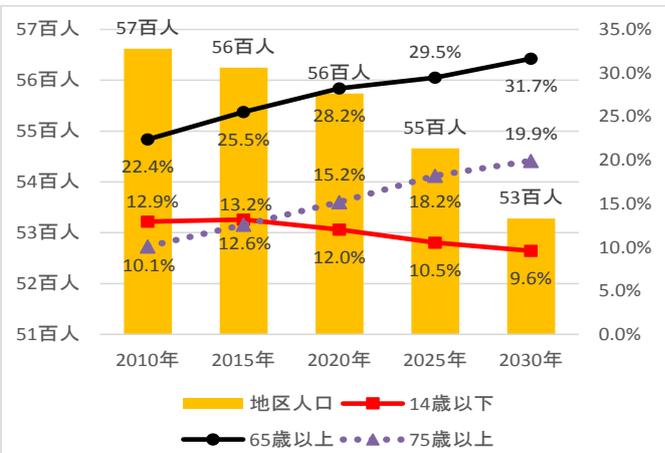
年齢や障がいの有無を問わず、広い世代が集い交流できる行事です。いつまでも「この街に住んでいてよかった」と地域の方々に感じてもらえるよう街の美化にも取り組んでいます。



■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015 年 3 月を見ると、旭区平均（折れ線）と比べてみると、特に女性はよく似た構成となっている。
- ・人口の推移では、この 5 年間でわずかに減少しました。高齢化率は約 3% 増加したが、旭区平均より低くなっています。
- ・世帯数はこの 5 年間で約 50 戸増加しています。また、世帯人員は 2015 年で 2.32 人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020 年で約 5600 人、2025 年で約 5500 人と見込まれます。また、高齢化率は 2020 年で約 28.2%、2025 年で約 29.5%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



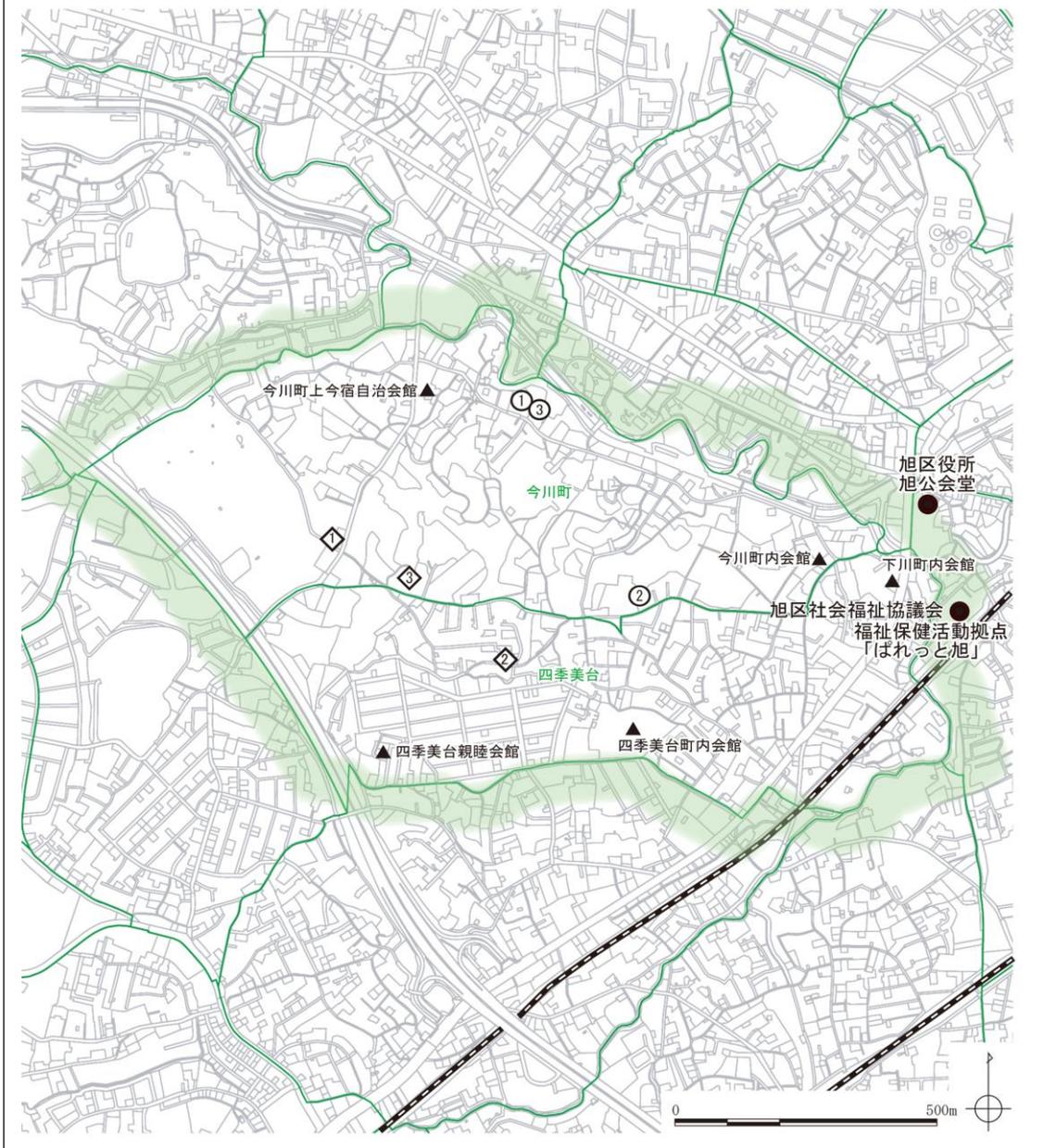
■ 2期計画の振り返り

- ・町ぐるみ健康づくり教室が地域内で開催され、自らの健康を気遣い生活をする高齢者が増えた。その結果、自治会町内会や保健活動推進委員が実施している、健康イベントに多くの方が参加している。
- ・高齢者昼食会のみならず、高齢者向けのサロンや居場所づくり事業が多くのボランティアによって実施されている。また参加者だけでなくボランティアの活動場所・居場所にもなっている。
- ・子育て支援「かみふうせん」は親子で気軽に参加し、子どもを遊ばせながら子育てや生活の情報交換ができる機会となっており、多くの方が参加している。

■地区の福祉課題

- ・地域活動の担い手が高齢化してきている。
- ・新たな担い手がなかなか見つからない。
- ・子供の遊ぶ場所や、子供が地域と繋がる機会が少なくなっている。
- ・マンションが建ちはじめ、近所付き合いが少なくなっている。

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

子ども	認定保育所
	① ちとせ保育園
	認定こども園
	② もりのこ
高齢者	放課後児童クラブ
	③ アガペー学童保育
	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)
① のぞみの家	
② あさひ別荘	
介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	
③ 今川の郷	

旭南部地区



旭南部地区は、区の南部に位置し、厚木街道付近から保土ヶ谷区境までの区域です。区域内を保土ヶ谷バイパスが縦断し、起伏に富み坂道が多いところで、南本宿市民の森、南本宿公園など緑に恵まれています。

地区内の高齢化率は区内で2番目に低く、15歳未満の人口比率は高く、今後も人口や子どもの増加が見込まれます。

■ めざす地区の姿

- ・地域の福祉課題を身近な問題として協力し合う土壌の育成が進んでいる。
- ・乳幼児から高齢者まで安心して暮らせるための諸活動が継続して行われている。
- ・障害児者等に関する認識アップと、支援に関する意識の向上が進んでいる。
- ・世代間交流を含めて、住民参加による明るいまちづくりが醸成されている。



- ☆ 地域の福祉保健活動を支える各団体の、活動の特性を踏まえた上で、各種情報の共有化や支援体制の育成を図り、地域を支える力としての福祉保健活動に関する意識の向上を目指す。
- ☆ 各計画に関しての主たる実行団体名を※印〔内〕に表示。

■ 目標A

連動する区計画の柱 1 地域の福祉力アップ

地域の福祉力アップ

○福祉保健計画等の周知

- ・地域情報の共有化（連合自治会・社協機関誌や各自治会での情報提供促進）
 - ・福祉保健意識の向上（各団体活動での周知活動促進）
 - ・地域ケアプラザ活動の周知度アップ(広報紙の有効活用、出前講座等開催支援)
- ※〔地区全体〕
※〔連合・社協〕

○自助・共助の活動支援

- ・自助・共助活動の必要性再確認（個々人の立場で自助・共助を考える機会をつくる）
 - ・災害時を含む支援体制の構築と指針検討（団体ごとに指針を検討し地域での共有化を図る）
 - ・支援ボランティアの掘り起し（隣接地区等も視野に入れ支援者を募る）
- ※〔地区全体〕
※〔社協・民児協（民生委員児童委員連絡協議会）〕

○子ども参加行事支援

- ・子ども参加行事の開催と支援
（吹き矢大会・親子釣り大会・大縄跳び大会等の開催・支援）
※青指（青少年指導員連絡協議会）
地子連（地区子ども会連絡協議会）
- ・福祉体験活動への支援
（ジュニアボランティア活動の支援など）※〔民児協・社協〕



■目標B

安心して生活できる地域づくり

○顔の見える関係づくり

- ・地域住民間での関係づくり支援（高齢者を含めての地域情報の共有化と各種支援体制の模索）
※〔老ク（老人クラブ連合会）・民児協・社協・自治会〕
- ・各種見守り活動の支援（各団体間での連携強化と情報交換促進） ※〔老ク・民児協・自治会〕

○要援護者対策構築

- ・災害時要援護者体制の構築（平常時を含む） ※〔自治会・民児協・老ク〕
- ・平常時を含めての見守り強化（認知症対応等を含む見守り活動の近隣住民への協力要請等実施）
※〔自治会・民児協・老ク〕

○子育て不安解消など

- ・子育て中の親を含めての支援
（子育てサロン「ママ・キッズ」の活動推進） ※〔社協・民児協・他〕
- ・子どもの健全育成支援（青指主導の各種行事等への支援）※〔青指・社協〕
- ・児童の安全見守り活動支援（学援隊活動等の見守り活動の支援）
※〔PTA・自治会・老ク・他〕



■目標C

地域の元気がアッフ

○健康づくり推進

- ・連合・老ク連各種行事等支援（健民祭や老ク連の催事等を積極的に開催）※〔連合・老ク・社協〕
- ・体操教室他、開催と支援（保活主導の体操教室・ロコモ度チェック等の活動や、地域住民主体の体操教室等支援）
※〔保健活動推進委員会・社協・自治会〕



○高齢者の居場所づくり

- ・高齢者と介護者の居場所づくり（お茶のみ地域サロン「ほっと」の活性化）
※〔社協・民児協・老ク・他〕
- ・高齢者が地域行事等に積極的に参加しやすい仕組みづくり
（さらなる高齢化時代に向け、高齢者が地域活動に参加しやすい仕組みづくりを模索） ※〔社協・民児協・老ク・自治会〕



○障害児者関連支援

- ・障害児者・家族の要望等調査（当事者団体及び施設等からの要望等を把握し地域住民に情報等提供、支援を呼びかける）
- ・地域行事等への出番づくり（当事者や施設等を含めて協議の場を持つ）
※〔社協・民児協〕

○教育水田での米づくり

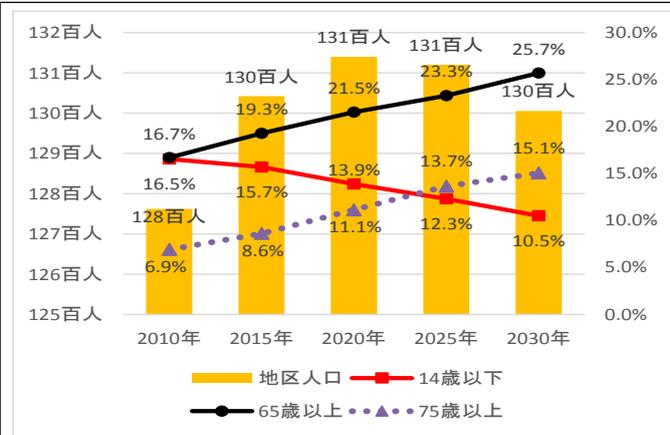
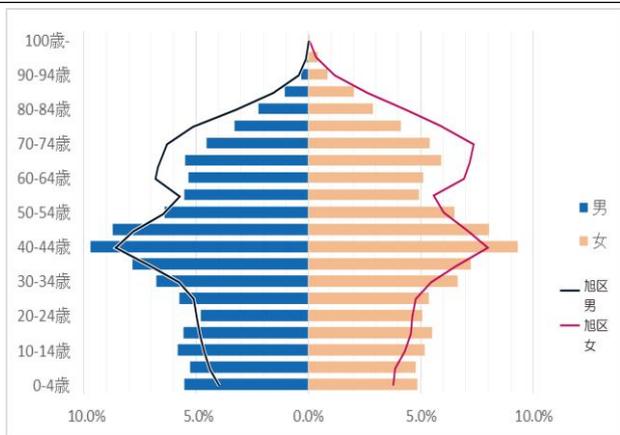
- ・3世代交流による米づくり（地域の稲作指導員と学校・PTAが連携して三世代交流活動としての米づくりを実施、食育活動・福祉活動にもつなげる）
※〔地域住民・PTA・他〕



■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015 年 3 月を見ると、旭区（折れ線）に比べ、60 歳以上の層の比率が少なくなっています。15 歳以下も含め、49 歳以下の層の比率が区の平均よりも高くなっています。
- ・人口の推移では、この 5 年間で約 200 人増加しています。高齢化率は 19.3%で、区内でも低い地区のひとつです。
- ・世帯数はこの 5 年間で約 200 戸増加しています。また、世帯人員は 2015 年で 2.38 人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020 年、および 2025 年で約 13100 人と見込まれ、2020 年をピークに減少すると見込まれます。また、高齢化率は 2020 年で約 21.5%、2025 年で約 23.3%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■ 2期計画の振り返り

○子育て支援⇒未就園児親子の不安の解消、児童（親子）の健全育成に成果あり。

- ・ママ・キッズ、親子釣り大会、大縄跳び・吹き矢大会開催・支援等

〔民児協・地区社協・青指・地子連・ボランティア等〕

○高齢者支援・健康づくり支援⇒高齢者の不安解消、健康づくりに役立っている。

- ・ひとり暮らし高齢者交流会、見守り・友愛活動、健康体操教室等

〔民児協・地区社協・老ク・ボランティア・保健活動推進員、連合自治会〕

○まちづくり・他⇒地域内の交流(世代間を含め)と、防犯活動や災害時対策等に進捗が認められた。

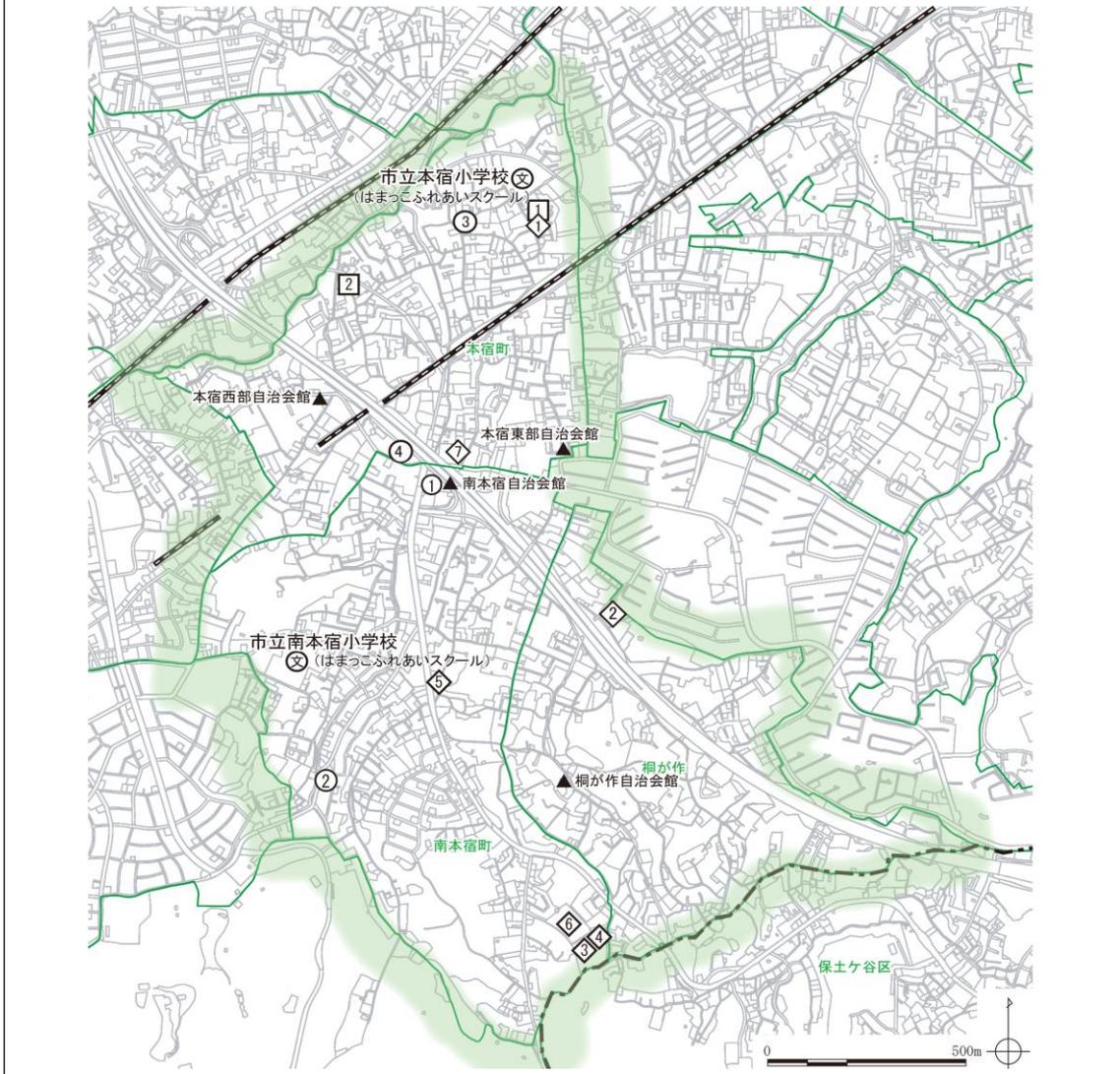
- ・健民祭、防災訓練、防犯のつどい、災害時支援対策、教育水田活動、広報紙での情報共有化等
- ・障害児者等支援については状況把握の初期段階止まりである。

〔連合自治会（含、単位自治会）・地区社協・老ク・小学校（PTA）〕

■地区の福祉課題と対応

- ・地域を支える力としての福祉保健に関する意識の向上を図ることも必要。そのためには、地域における各種情報の共有化、支援体制の育成が必要。
- ・地域内各自治会の活動には違いがあり、福祉保健活動に関する意識にも差がある。連合自治会としての活動にはまとまりがあるので、それを軸に諸活動を推進することを視野に入れたい。
- ・地域内にケアプラザや地区センターが無く、中学校も無い。隣接地域の施設や学校との連携を視野に入れた活動の検討も必要と思われる。
- ・2025年・高齢化問題（団塊の世代⇒後期高齢者となる）に対する対応への検討も課題。
- ・子育てのしやすい環境の整備。（小・中学校等との連携を含め）
- ・障害児者に関する状況の認識アップと、支援に関する活動の掘り起しが課題。

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

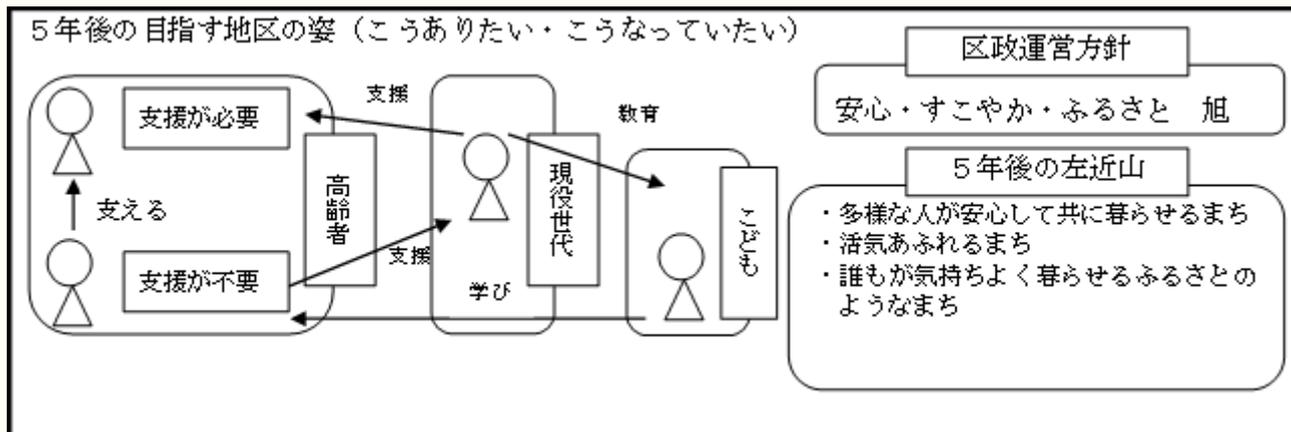
子ども	認可保育所	① 横浜小谷かなりや保育園	高齢者	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	① フレンドィ本宿	
	家庭的保育事業	② みうら家庭保育所		② サリューブルあさひ弐番館	ケアハウス	③ グリーンヴィラ富士見
	放課後児童クラブ	③ 学童の家わんぱく		介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	④ 富士見園	
	幼稚園	④ 本宿幼稚園		⑤ ヴィラ南本宿	介護老人保健施設	⑥ ナーシングピア横浜
障害者	障害者施設	① まどか工房 I		特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム)	⑦ ホームステーションらいふ二俣川	
		② 横浜マックデイケアセンター				

左近山地区

左近山地区は、旭区の南東に位置し、丘陵部分を中心に開発された集合住宅地です。開発初期に入居した人たちが中心の地区で、区内で最も高い高齢化率です。一方で、要介護認定率は区内で3番目に低いなど、元気な高齢者が多い地区です。子どもや高齢者が安心して、遊べる広い公園が多くあり、スーパーが近くにあるなど生活環境も整っています。



■めざす地区の姿



■目標A

連動する区計画の柱 | 地域の福祉力アップ

多様な人が安心して暮らせるまち

■具体的な取組

- ・ほっとさこんやま等地域交流サロンの活用（地域支援部会）
- ・空とぶくじら社の地域イベントへの参加交流
- ・団地祭での福祉相談コーナーの開設

ほっとさこんやまの有効な活用のために
地域でできそうなこと

地域の方にもっと知ってもらい利用者を増やしたい。

友人を誘ったり、子どもを連れてランチに行ったりしたい。

イベントに参加したり、会合でほっとさこんやまを利用したい。

子どもと一緒に参加できるようなイベントができるといいな。



ほっとさこんやま

■目標B

みんなで支えあうふるさと左近山

■具体的な取組

- ・新たな地域ボランティアの育成（PTA層への協力依頼）
- ・認知症サポーターの育成により、認知症の人を地域で見守る体制の強化
- ・民生委員、地区社協、老人クラブ、ボランティア団体による見守り

地域ボランティア育成のために
地域でできそうなこと

地域の人達が知り合いになれるように、あ
いさつや声かけが大事。

ボランティアや地域活動についてPRをし
て、粘り強くお誘いしていきたい。

認知症や介護技術の学習会を開きたい。

地域課題の解決に向けて、小中学生や高
校生も参画した取組みをしたい。

子ども向けのイベントへの積極的参加を
PTA層へ周知して、若い世代にも地域活
動に関わってもらいたい。



■目標C

活気あふれるまち

■具体的な取組

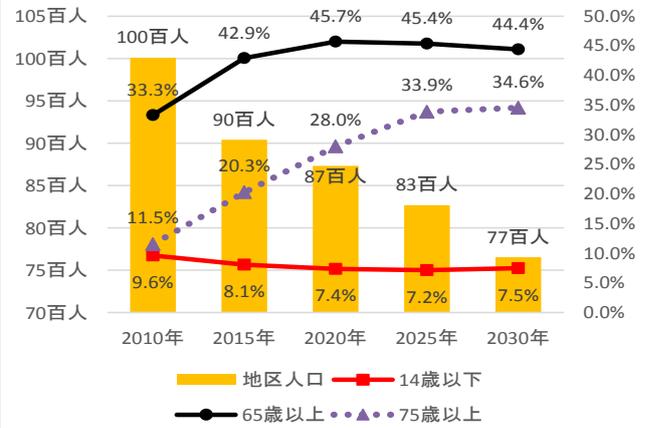
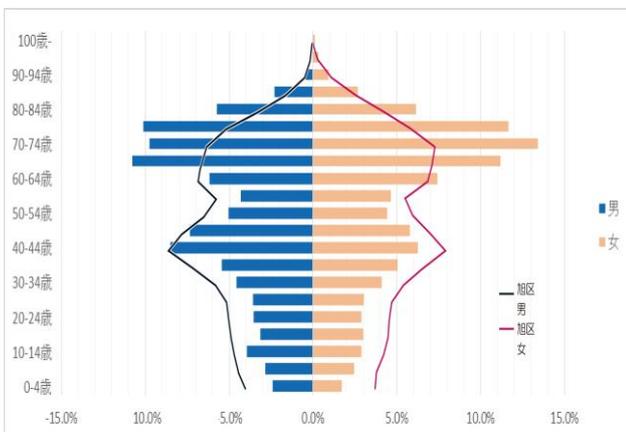
- ・ウォーキング、グランドゴルフ、スタンプラリー等の多世代交流ができるイベントの開催（マップ作成）
- ・商店街の賑わい創出等
- ・老人クラブ活動との連携



■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015 年 3 月を見ると、旭区（折れ線）に比べ 65 歳以上の層の比率が大変高くなっています。一方で、他の年齢層の比率はほとんどが区平均を下回っています。
- ・人口の推移では、この 5 年間で約 1000 人減少しています。高齢化率は 9.6%増の 42.9%で、区内で最も高くなっています。
- ・世帯数はこの 5 年間で約 140 戸減少しています。また、世帯人員は 2015 年で 1.94 人/戸で、2 人を下回っています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020 年で約 8700 人、2025 年で約 8300 人と見込まれます。また、高齢化率は 2020 年でピークをむかえ約 45.7%、2025 年で約 45.4%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■ 2期計画の振り返り

- ・「高齢者と地域のつながりづくり事業」をきっかけとして、NPO 法人オールさこんやまが立ち上がり、地域交流拠点として「ほっとさこんやま」が開所した。
- ・ウォーキングについては、年 3 回実施が定着するとともに、地区内にある障害者施設からも毎回参加してくれるようになった。
- ・輪投げ、ストラックアウトなど子どもでも楽しめるイベントを「スタンプラリー」形式で実施した結果、これまで少なかった小学生や親子での参加が増えた。

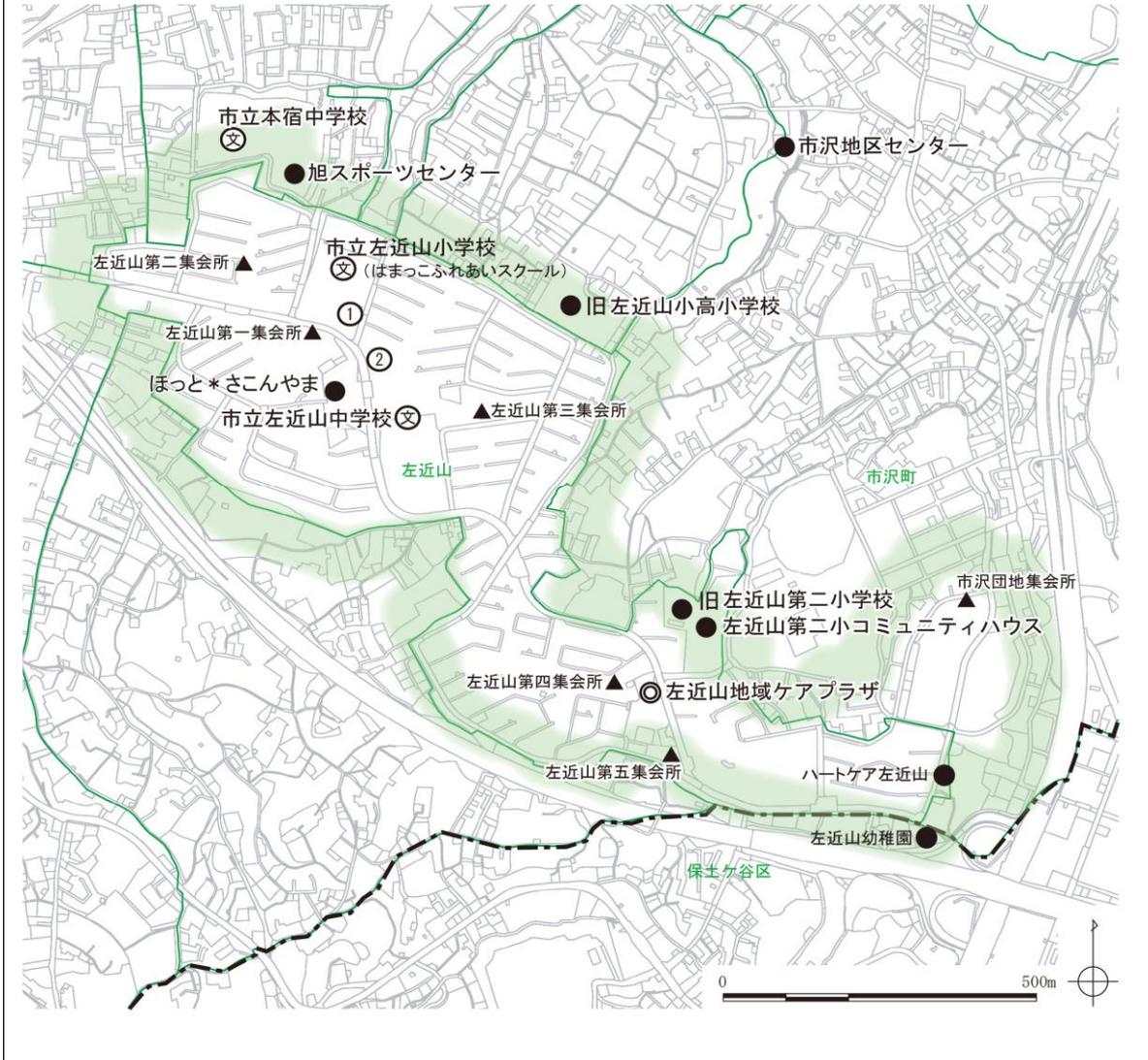
取組が進んだ要因

- ・ 1 つひとつの事業について、実行委員会を開催し支えあいネットワーク全体で取り組むことができています。
- ・ 支えあいネットワークに旭スポーツセンターが入っており、事業実施に大きな協力が得られている。

■地区の福祉課題

- 40%を超える高い高齢化率 ⇒ 高齢者の孤立化、認知症、転倒などケガのリスクが高まる。
- 出生率は 8.2%と旭区内で最も低い ⇒ 公園が多く、子どもが遊びやすい環境をもっとPRすることで、子育て層住民を呼び込むことができる。
- 要介護認定率は 13.8%と旭区 19 地区で 3 番目に低い (旭区平均は 17.3%)
介護予防の意識が高い ⇒ つまり、元気な高齢者が多い！
元気な高齢者が、地域を支える担い手として活躍している。
新たな担い手の発掘で地域全体をもっと元気にしていくことができる。

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

子ども

認可保育所

- ① 横浜市立左近山保育園

放課後児童クラブ

- ② スマイル

市沢地区

市沢地区は、区の南東に位置し、保土ヶ谷区の陣ヶ下溪谷を形づくる谷の源流域にあたります。南北に環状2号線が通り、住宅地と農地・樹林地に土地利用が分かれています。

人口、世帯数ともに5年間で増加していますが、1世帯当たりの人員数は、2.36人/戸で変わりません。若い年代が多く、高齢化の進行が遅い地区です。



■めざす地区の姿

- 町内会・子ども会・老人会の加入者が増え、日常的な見守り活動の体制が整い、顔の見える関係から声を掛け合う関係へと変わっている。
- 町内行事の「見える化」を行い、情報が地域住民に届いている。
- 地域の抱える福祉課題の「見える化」を行い、地域住民の理解が進んでいる。

■目標A

連動する区計画の柱 3 地域の取組で元気力アップ

地域交流の活性化

■具体的な取組

- 町内会・子ども会・老人会などが連携し、交流の場として神田公園を活用する。
- 学校との連携による、こどもたちも参加できるイベントの開催と工夫。
- 地区センターと地域の双方のためになるような取組をすすめる。



子ども会いちご狩り



三世代ラジオ体操



運動会

■目標B

連動する区計画の柱 1 地域の福祉力アップ

情報発信の「見える化」で地域の理解を深める

■具体的な取組

- 町内会・子ども会・老人会の活動に活動内容の見える化によるPRで、理解し参加してもらう。
- 掲示板の活用など、情報の周知方法を工夫する。
- 市沢地区連合町内会と市沢地区社会福祉協議会合同の「市沢地区だより」を発行し、町内会未加入者にも配布する。



獅子舞



消火訓練



高齢者を祝う集い

■目標C

災害時だけでなく、日常時の要援護者見守り体制を整える

■具体的な取組

- 災害時要援護者支援カードの見直しにより、防災マップ（要支援者・支援者情報の落とし込み）を作成し、日常時の見守りにつなげる。
- 町内会未加入者も含めた災害時の要援護者を支援する体制について検討する。
（区との協定による要援護者名簿の受領）
- 地域でちょこっと応援団（仮称）を立ち上げ、日常のたすけあい体制をつくる。



防災訓練



要援護者支援カードの保管



一時避難場所設定

■目標D

地域活動者の担い手づくり

■具体的な取組

- 市沢まつりをきっかけに中高生のボランティアや町内会未加入者の地域活動への参加を促す。
- 特技や経験を発揮する場をつくるため、土曜塾のようなものを復活させる。
- 各団体の情報共有の場を設け、団体相互の連携により、取組状況を地区の中で共有して地域活動しやすい環境をつくる。



市沢フェスタ餅つき



盆踊り

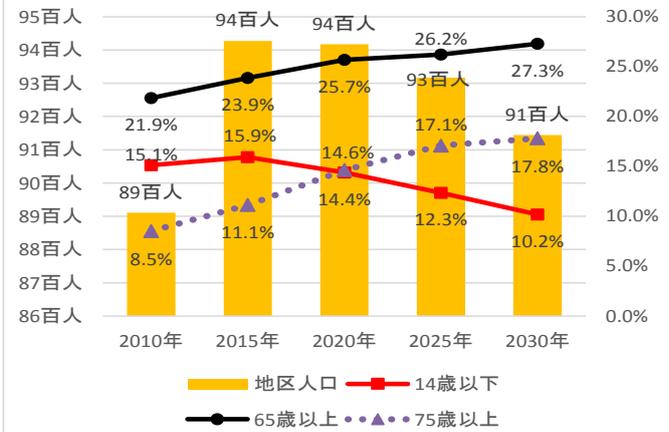
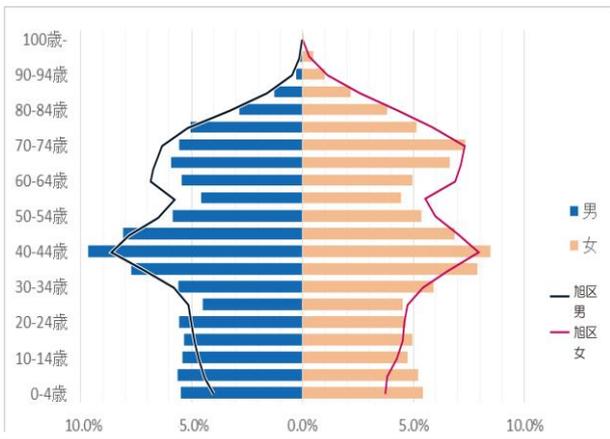


グランドゴルフ

■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015年3月を見ると、旭区（折れ線）に比べ55歳以上の層の比率が低く、35歳から49歳の層の比率が高くなっています。また、区平均に比べ14歳以下の層の比率が高くなっています。
- ・人口の推移では、この5年間で約500人増加しています。高齢化率は2%増加したが、旭区平均より低くなっています。
- ・世帯数はこの5年間で約230戸以上増加しているが、世帯人員はほぼ変化せず、2015年で2.36人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020年で約9400人、2025年で約9300人と見込まれます。また、高齢化率は2020年で約25.7%、2025年で約26.2%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■2期計画の振り返り

- 安全安心のまちづくり分科会、顔の見える関係づくり分科会、子育て支援分科会の3分科会を立ち上げ、地域の課題を分科会毎に話し合い、取り組んだ。
- 災害時要援護者支援カードを作成し、組長や班長など支援者も決定し保管体制も整えた。
- 地区内に（全47箇所）一時避難場所の設置。防災訓練で、参加住民が一時避難場所から防災拠点へ避難する訓練を行っている。
- 子育て支援に携わる団体どうしが共催でイベントを開催するなど、協力関係を築くことができた。
- 災害時ボランティア育成、組織化が進まなかった要因として、第2期計画当時は若い世代を集めて教育していく構想があったが、具体的な活動のイメージが固まらなかったこともあり、他の取組が優先となっていた。

■地区の福祉課題

【所属団体の加入者減少・活動者の不足】

- ・町内会未加入者が多数のため、災害時に支援を必要としている方を把握できていない。
- ・災害時の見守り体制については検討しているが、日常時の見守り体制が整っていない。
- ・子育て世代は共働きが多く、地域とのかかわりが難しくなっている（子ども会未加入者も多い）。

【情報発信】

- ・子育て世代が地域のことを良く知らない。
- ・イベントを開催しても、毎回参加者や担い手の顔ぶれがいつも同じ。

【子育て世帯の支援】

- ・留守家庭児童が増えている。
(共働き世帯が多いので、親も精一杯の様子。子どもだけでなく親の支援も必要)

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

子ども	認可保育所	障害者	障害者施設
	① マヤ保育園		① 第一空とぶくじら社
	小規模保育事業		② 第二空とぶくじら社
	② 保育室ひかり		③ 第三空とぶくじら社
放課後児童クラブ	③ 市沢学童クラブ	地域活動支援センター(地域作業所)	④ もみの木第1作業所
幼稚園	④ 左近山幼稚園	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	① 華寿園
		介護老人保健施設	② ハートケア左近山
		高齢者	